

泉 キヨ子（帝京科学大学医療科学部看護学科）

### 判定・総評

評価の機会をいただき、亀田医療大学は大学評価基準に適合していると考えます。

### 総評と意見

使命・目的については、大学の理念である HEART を生かした看護学科の使命目的およびアドミッションポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに反映しており、ホームページなどで公開されているので、大学の理念が教職員・学生ともに理解されやすく、実行されやすいので、明確性があり適切性であると考えます。

学修と教授のなかで学生の受け入れは、現在のところ看護学科の収容人数を満たしています。しかし、千葉県内に多くの看護系大学が新設されていることで、受験生が減少していくことが予測されていますので、AO 入試など、さらに多様な受験方法を考慮していくことが必要と考えます。

教育課程では、大学の理念から 9 つの必須要素を示し、これを基本としてカリキュラムを構成し、その内容はミニマムエッセンシャルズの国際的視点や国内の文科省・厚労省からの報告内容などとの整合性を確認して、教育課程編成をしていることは、評価できます。

一方では、この必須要素から作成された看護実践力修得度評価表の評価項目は抽象度が高く、学生にとっては難解であり、どのような実践（事実）から評価したかについての信頼性が少ないので、もっと有効性のある評価表の改善が望まれます。

学修及び授業の支援について、「教務・カリキュラム委員会」、「FD・SD 委員会」「学内研修会」などを置いて教員ばかりでなく、職員との協働により改善に向けた活動に取り組んで努力ことは評価できます。また学生に対しては、細やかなチューター制度やオフィスアワーの設定、ハラスメント相談などを用いていねいに支援していることは評価できます。

教授方法や改善の工夫を学生の授業評価アンケートなどさまざまに工夫して、活用していることは評価できます。ただ、学生から高い評価を受けている科目の教員の授業参観を全教員が実施し、分析・評価しているとのことで、どのような科目でどのような分析・評価なのかについて関心を持ちましたが、その資料が見当たらずに残念でした。

臨地実習は3年次の専門分野の必修科目と4年次の選択科目があり、とりわけ選択科目の実習は大きな亀田メディカルセンターを有する大学ならではのユニークな方法であり、評価できます。ただ、統合実習も入れて考えますと、学生が同じ病院の同じ病棟に数回、目的の違った実習をする可能性も考えられ、教員・臨床の指導者共に、違いや特徴を意識させた取り組みも必要と考えます。

臨地実習は亀田メディカルセンターを中心に展開し、学生は卒業後も大多数が就職するという特徴があるので、看護教員の看護実践能力の向上を図るために教員のキャリア発達は重要です。さらに臨床の看護師も教育経験を踏むなど、臨床とのユニフィケーションの構築をより確立したらよいのではと考えます。

以上

## 貴大学の自己点検評価書に対する意見

2017年9月22日

川村佐和子

筆者は基本姿勢を法令順守とし、気づいたことを申し述べます。

### 1. 学生数について (p. 5)

現在の学生数は定数の5%増で、とくに指摘される状態ではありません。しかし、今後は若年人口の減少に伴う入学者の減少および看護系大学の増加などによる学生数の確保に困難があると各大学が感じています。また、医療改革による病床数の変化も激しく、これからの看護師に求められる質はより高い水準を求められると予測されるなど、新卒者の就職条件も従来通りではありません。学生定数の確保や就職などについて、中長期計画をしっかりとたてていくことが必要と考えます。

### 2. 教員の配置 (p. 5、p 32)

P.5の教員数の表では、教授人数が9人で大学設置基準を満たしていないと考えられます。各科目と教員の専門分野の適合性は読み取れません。P.32の記述では、このことについて「・・・教授の数が9人で大学設置基準を満たしていないが、専任教員数が29人と大学設置基準を十分満たしている」と記載しています。この記載は、設置基準という法令ではなく、自大学の基準または考え方に則っている判断ではないでしょうか。

### 3. 入試の方法について (p.11)

アドミッションポリシーに従って、「豊かな人間性に沿った学生」を確保するための方策として、「3区分の入学試験全てにおいて、2名の教員による面接をしている」と記載されていますが、一般的には面接教員の判断が分かれた場合に可否を明確にするため、面接者は偶数ではなく、奇数の人数をおいていると思います。また、これは貴大学の特徴を示すものですから、どのような設問をして判断しているなどの工夫を具体的に記載された方がよいと思います。

### 4. 学修及び授業の支援<2-3の視点>について (p19)

(1)2-3の自己判定の回答記載は「基準項目2-3を満たしている」とありますが、やはり、「自大学では、〇〇を行っているので、基準を満たしていると判定した」などと説明をされた方がよいと思います。

ここではTA (Teaching Assistant) の活用について、どうやっているかを求めています。

すので、どのように活用しているか又は活用しない理由を記載された方がよいと思います。TAには、いくつかの目的があり、院生の生活費援助、院生が将来教員になった場合や教育的立場に立った場合などに活用できる教育法を学習させる、などがあります。そこで、多くの大学では、TAに携わる院生に対して、教員としての在り方や教育法などを教育しています。これらも踏まえて記載されるとよいかと思ひます。

#### 5. GPAの取入れ

学修評価法として、GPAを用いることが奨励されていると思ひますので、この点もどのように実施しているか、導入しない場合の理由を記載されておくとよいかと思ひます。

#### 6. 災害支援対策（学生対応）

特に記載項目がないかもしれませんが、リスク管理としての課題は大きいと思ひます。とくに、貴大学は校舎や実習病院が海岸線に近いので、地理的・社会環境的条件的概略とリスクの回避策やリスク発生時の対策などを記載されてあるとよいと思ひます。

以上